

# 若者の新しいスポーツ

## 藤高式「Tawashi Ice ホッケー」



### 考案の経緯とその概要

ご存知のとおり冬期期間北陸地方は降雪のため学校での体育授業は屋外での実施ができません。それ故、体育授業時の体育館は沢山の生徒で過密状態の活動となり、十分な運動量確保等も難しいのが現状です。

そのような現場で長年このような状態の中でも生徒たちが「面白く、活動的で夢中になってやれる新しいスポーツ」が考案できないものかとかねがね思案してきました。

1998年、長野オリンピック、アイスホッケーの試合をたまたま観戦することができました。何もかもがスピーディでエキサイティングかつ迫力満点の素晴らしいゲームに感動し、この素晴らしいスポーツを何らかの形で冬期期間体育館フロアで体育授業に取り入れることができないものかと思いつけました。

しかし、アイスホッケーは多くの用具が必要となり、その用具費用は非常に高くなり学校では不可能と断念した時期もありました。

一度はあきらめたものの、フロアが傷つかず、ケガなく面白く活動的で生徒たちが夢中になれる、その上でできるだけ安く準備ができるスポーツをとという課題を自らに課し、思案し続けており

ました。

今年 1 月のある日、壁に立てかけてあった清掃用具のデッキブラシをふと目にし、はっとしてアイデアが浮かび、改良スティック作成を思い立ち、新しいスポーツの考案へと至ることができました。多くの先生方、各分野の方々から温かいアドバイス及びご協力により、考案開始から 2 週間余りで 40 人分の用具が完成し、体作りの授業の中で補助教材として試行実施することができました。

#### < 概要 >

体育館フロアで、改良したデッキブラシをスティックとして、亀の子タワシ、または凍ったスポンジタワシをパックとしてアイスホッケーのゲームを行うものです。

### Tawashi Ice ホッケー

#### (1) 用具

スティック（改良デッキブラシ）

市販の清掃用デッキブラシのブラシ部分を縦に付け替え、ブラシ部分を 1cm に切り取り、その上に靴下 2 枚をかぶせてフロアとの衝撃予防と傷つけないよう改良したもの



パック（当たってもケガをしないようなパックをめざして作成）

(A) タワシ : 亀の子タワシが安定し快滑走するように丸い形に改良したもの

(B) アイスタワシ : パック型に切り抜いたスポンジタワシに水をしみこませて

冷凍庫で凍結させたもの

自分が小学生時の冬、池の氷を廊下で滑走させて遊んだ楽しさを生かせないかと取り組み、いろいろ試作試行した結果、当たっても安全でスピーディにフロアを滑走するものを作ることができました。



左がタワシ、右がアイスタワシ

## 防具

ゴールキーパーには野球のキャッチャーマスクを改良したものと、スキー用革手袋、サッカー用のレガース、バレー用膝サポーターを着用させる。他のプレイヤーは膝のサポーター、すねにサッカー用レガース等をできるだけ着用させる。

## ゴール

既成のミニサッカー用ゴールを使用

## (2) 競技場

バスケットコート、コート以外のスペースを使用。エンドラインの中央にゴールを置き、その他壁面までのフロアも競技場として使用

## (3) チーム編成

(例) 33人を2チームに分け、5人ずつのチームを作成

紅(16人)

白(17人)

グループチーム(4チーム)

第1グループ(5人)

第2グループ(5人)

第3グループ(5人)

第4グループ(1人+4人)

グループチーム(4チーム)

第1グループ(5人)

第2グループ(5人)

第3グループ(5人)

第4グループ(2人+3人)

第1～第3グループから補充

第1～第3グループから補充

授業時の人数を紅白2チームに分け、各チームは5人ずつ1チームのグループチームを作る

## (4) 競技方法

試合は3つのピリオドからなり、第1、第2ピリオドは各々のグループチーム1分30秒～2分、第3ピリオドは1分のゲームを行う。各ピリオドは各チーム出場順番を自由に変えてよい。自由時間をそれぞれ第1と第2、第2と第3ピリオドに3分間設ける。この時間は作戦の打ち合わせ、及び各チームの練習時間、休憩時間等自由とする。得点は第1、第2ピリオドはゴール1点、第3ピリオドは2点とする。各ピリオドで使用するパックは第1ピリオドはタワシ、第2ピリオドはアイスタワシ、第3ピリオドはトスで勝ったチームがタワシかアイスタワシを選ぶ。勝負は紅白2チームの合計得点で決まる。同点の場合、各グループチーム代表1人ずつのペナルティーゴール戦で決定する。

## (5) 主な反則と罰則

相手にケガをさせない、フロアを傷つけないの2点から以下の反則と罰則を決め、その防止に努めている。

### 反則

スティックを常に床に滑らせてプレーすることとし、スティックを持ち上げて走ったりプレーした場合、スティックアップキャリーでその反則地点で相手のフリーヒットとする。

### 罰則

シュート、パス、パックの争奪、及び全リンク内においてスティックを膝下より上に振り上げてプレーした場合、ハイスティックとして、相手側にペナルティショットを与え、程度に応じそのプレイヤーは30秒～1分のペナルティ退場となる。

## (6) プレーの細則

今後のゲーム展開及び技術の発展に応じ、傷害防止上及びゲーム向上を考慮し、独自のルールを採用する。

## 公開授業実施会場、及び日時

会場：第1体育館

日時：2年男子 3、7、8組 28名

2年男子 4、6、9組 29名

2月10日(火)1限目 8:40～9:30

2月18日(水)2限目 9:40～10:30

13日(金)2限目 9:40～10:30

25日(水) "

17日(火)1限目 8:40～9:30

3月3日(水) "



## 用具製作の経費

### スティック

プレイヤー用デッキブラシ 1本あたり	365円(消費税込み)
ゴールキーパー用デッキブラシ 1本あたり	525円(消費税込み)
穴埋めボンド(2個)	630円(消費税込み)
取り付け釘	37円(消費税込み)
ブラシにかぶせる靴下(生徒家より不要靴下持参)	0円

パック

亀の子タワシ 1 個	42 ~ 63 円 (消費税込)
スポンジタワシ 1 個	84 ~ 105 円 (消費税込)

Tawashi Ice ホッケー用具総合計費用 40 人分

スティック	プレイヤースティック (365 円 × 38 本)	13,870 円
	ゴールキーパー (525 円 × 2 本)	1,050 円
	取り付け用釘、ボンド	667 円
パック	亀の子タワシ (63 円 × 40 個)	2,520 円
	スポンジタワシ (84 円 × 12 個)	1,008 円
合計		19,115 円

< 終わりに >

このスポーツの考案に際し、本校体育科全員の先生方の温かい協力ならびに数々の貴重なアドバイス等により用具等をどうにか完成し実施することができました。この間、最大の問題点はスティック作りでした。いくつもの販売業者に、縦についたデッキブラシはあるか、縦につけたデッキブラシを注文できないかと尋ねますと、3~5万本の注文があれば可能とこのことでした。その回答を聞き断念しようとしていた際、科内の先生の貴重なアドバイス及び県教育センターの吉川先生、県工業技術センターの小稲先生、春江工業の大野先生、和田先生、篠崎先生方および、沢山の生徒さん達による温かいご協力で授業に必要な 40 本の手作りスティックを完成することができました。このスティックがなければ、この新しいスポーツの出現はありえず、深く深く感謝している次第です。指導もいたって簡単でしかも準備費用も少なく、今後用具等がより安全に改良がなされ、県下及び全国の小、中、高生の冬期の体作りの新しいスポーツとして発展していけばと念じております。